

第46回埼玉県精神保健福祉卓球大会ルール

<A部門>

1 チーム編成

男女混合で1チーム4名～登録することができる。ただし、出場選手のうち、原則として1名以上は女子とする。

2 メンバー表の提出（オーダー用紙の提出）

各チームの監督は、各試合の前にオーダー用紙に選手名を記入し、競技開始前に各試合の主審に提出する。出場選手は、試合毎に変更することができる。

2番目のシングルスは女子選手とする。3番目のダブルスは男女混合ダブルスとする。シングルスに出場した選手は、ダブルスにも出場できる。ただし、一人の選手が複数のシングルスに出場することはできない。

3 ゲームマッチ

3マッチ先取

<B部門>

1 チーム編成

1チーム3名～登録することができる。

2 メンバー表の提出（オーダー用紙の提出）

各チームの監督は、各試合の前にオーダー用紙に選手名を記入し、競技開始前に各試合の主審に提出する。出場選手は、試合毎に変更することができる。

一人の選手が同じ試合で他の試合区分に重複して出場することはできない。

3 ゲームマッチ

2マッチ先取

<両部門共通>

1 競技方法

競技方法については、公式ルールに準ずる。

(1) 得点等

予選リーグは11点先取、1ゲームマッチとし、全区分の試合を行う。決勝トーナメ

ントはA部門は、11点先取、3ゲームマッチとし、B部門は、11点先取、2ゲームマッチとする。勝敗がついた区分以降の試合は行わない。ただし、両競技者又は両組が10点に達した場合は2点連続先取した方を勝ちとする。

(2) サービス

サービス開始時、手のひらを開き一旦制止させる。この時、プレイングサーフェス(卓球台)より高くなければならない。

サーバーはボールに回転を与えることなく、16cm以上垂直に投げ上げ、落下する途中を打つものとし、サーバーのコートのエンドライン後方でなくてはならない。打ったサービスがネットインした場合には、ノーカウントでやり直しとなる。

※ただし、障害特性等により、16cm以上あがらない場合は、できる範囲で行う。ダブルスの場合は、サーバー側コートの右半面にボールをバウンドさせ、レシーバー側コートの右半面にバウンドさせる。

(3) サービス・チェンジ等

サービス・チェンジは2ポイントごとに行い(デュースのときは1ポイントごと交代)、コート・チェンジはゲームが変わる際に行う。ただし、第3ゲームでは、一方の競技者又は組が5ポイント先取した際にコート・チェンジを行う。

ダブルスの場合は、この時にレシーバーの順序を交代する。

(4) ラリー中のルール

・ラリー中にネットインした場合には、ラリーは続く。打ったボールが台の角、エッジ(ふち)に当たった場合もラリーは続く。ただし、ボールが台のサイド(側面)に当たった場合はミスとなる。

・ラケットを持っていない方の手が台についてはいけないが、触れる程度ならよいこととする。

2 競技者への助言及びマナー

競技者はゲームとゲームの間の休憩時間やその他の認められた中断の時には、助言を受けることができる。ボールを取りに行ったとき等には助言を受けられない。

相手競技者に対して不快感を与えるような応援をしてはいけない。

3 休憩

汗を拭くときは、6ポイントごとにタオルを使用することができる。

4 抗議

審判員に対する抗議は認めない。ヤジ、その他は厳禁とする。

審判に誤りがあった場合には、参加者同士で補い合い、修正ややり直し行う。

5 順位について

リーグ戦においては、各チームの勝敗数で順位を決定する。勝敗が同数の場合、総ポイント数で各順位を決定する。

6 ゼッケンの着用

選手は、選手登録名簿に記載された背番号とチーム名を明記したゼッケンを必ず着用すること。

7 使用球

日本卓球協会公認公式ボール日卓三ツ星ボール「40mmホワイトボール（プラスチック）」を使用。

8 審判員について

各チームから審判員（主審1名以上・副審1名）を申告する。

主審は、本部が指定した試合の主審を行う（自チーム以外の試合）。副審は、自チームの試合の副審を行う。

ルールは公式ルールに準ずるが、上記記載のルールを参考にすること。コールに関しては、正式なものでもなくてもよい。

副審は、主に得点係を行い、主審が見えない部分において、エッジボールかどうかの判断を行う。